

横浜薬科大学 後援会だより

Vol.17

会長挨拶

後援会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本後援会の活動に対し、多大なるご理解と温かいご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また、去る6月に開催した「後援会定期総会」におきましては、多くの会員の皆様にご参加、ならびにご高配を賜り、誠にありがとうございました。皆様のご協力のおかげをもちまして、すべての議案が審議され、今期の活動を無事にスタートさせることができました。重ねて深く感謝申し上げます。

本後援会は、保護者と教職員との連携を深め横浜薬科大学の堅実な発展を後援することを目的とし、本学学生の健全な学園生活をサポートするための組織です。「子どもが大学生になってまで、PTA活動のような組織が必要なのか？」会員の皆様の中には、このような疑問をお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。かつてある喫茶店で、たまたま隣り合わせた学生が、分厚い薬学の専門書を広げ、一心不乱に勉強している姿を見かけたことがあります。その頃、まだ一年生だった我が子からは想像もできないほど、圧倒されるような真剣な姿でした。月日が流れ、実際に我が子が日々膨大な知識の修得や実験、実務実習、さらには進級や国家試験の準備といった幾多の壁に直面する姿を間近で見て、薬学生がいかに過酷で大変な道を歩んでいるかを痛感いたしました。この厳しい修学のハードルを乗り越える子どもたちを物心両面から支える「後援会」は必要なのだと、身をもって実感するに至りました。本学には、薬剤師を目指す「6年制の学科」と、薬科学技術者を目指す「4年制の学科」があります。いずれの道も通常の大学以上に修学のハードルが高く、だからこそ、学生たちが不安なく健康に学業や学生生活に専念できるよう支援を行うことには、極めて大きな意味があると確信しております。

学生たちがそれぞれの高いハードルを乗り越え、医療や科学の発展に貢献する人材として社会に羽ばたくため、後援会といたしましては、今期も皆様からお預かりした貴重な会費を最大限に活かした支援を進めていくこととしております。保護者の皆様におかれましては、温かいご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

結びに、会員の皆様のご健勝とご多幸、そして学生たちの輝かしい未来を心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

横浜薬科大学後援会 会長

篠原 康

令和 8 年度 定期総会

令和 8 年 6 月 7 日（日）、対面およびオンラインを併用して、定期総会を開催いたしました。当日は、38 名の会員の皆様にご来学いただき、ご出席を賜りました。

総会では、会長および大学からの挨拶の後、「令和 7 年度事業報告」、「令和 7 年度決算報告」、「令和 8 年度事業計画（案）」、「令和 8 年度予算（案）」ならびに「令和 8 年度の新役員選出」について審議が行われ、いずれの議案も原案どおり承認されました。

総会終了後には、加藤学部長、川嶋芳枝学生部長、磯村教務部長、梶原国家試験対策委員長、速水厚生部長及び川嶋 剛薬科学科長より、会員の皆様に向けて「大学の概要」「学生生活」「国家試験対策」「6 年制・4 年制学科の教育内容」「就職活動」等について、ご講話をいただきました。

後援会では、今後も会員の皆様とのつながりを大切にしながら、学生の多様な活動を支援して参ります。引き続き皆様のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 8 年度 後援会役員紹介（敬称略）

会 長	篠原 康		
副会長	高野 紀子	副会長	山口いずみ
会 計	北村 純一	会 計	高橋千栄子
幹 事	羽渕 裕真	幹 事	高橋佐和士
幹 事	石渡 達也	幹 事	天羽久美子
幹 事	奥津 俊彦	幹 事	白鳥 信子
監 査	鰐渕 清史	監 査	中野 智彦

令和7年度 事業報告

年	月	事業内容
令和7年	4月	① 入学式：生花、入学祝い品寄贈 ③ 第1回役員会：令和6年度事業報告、会計報告、令和7年度事業計画案・予算案等 ④ フレッシュマンセミナー支援：食事費用補助
	5月	定期総会開催：対面総会
	6月	① 第2回役員会・定期総会 ③ 研究室・指導担任支援：懇談費用等補助
	7月	① 白衣贈呈：4年制の3年生、大学院生
	8月	① 「後援会だより」作成・大学HPへ掲載 ③ 学位記授与式：卒業記念品、生花贈呈
	10月	① 学生用ネーム札贈呈：実習用名札 ③ 第3回役員会：上半期事業実績審議等
	12月	国試対策準備支援：軽食費用補助
令和8年	1月	CBT受験支援：弁当、飲み物配布
	2月	① 白衣贈呈：6年制の4年生、実務実習用 ③ 第4回役員会：下半期事業実績審議等
	3月	① ハマヤクコンテスト：入賞賞品寄贈 ③ 卒業生支援：記念品寄贈補助、卒業パーティー補助
通年		① 新型コロナワクチン接種費用補助 ③ TOEIC受験費用補助 ⑤ 短期留学支援：保険代金補助 ⑦ 登録販売者試験受験費用補助

令和8年度 事業計画

年	月	事業内容
令和8年	4月	① 入学式：生花、入学祝い品寄贈 ③ 第1回役員会：令和7年度事業報告、会計報告、令和8年度事業計画案・予算案等 ④ フレッシュマンセミナー支援：食事費用補助
	6月	① 第2回役員会・定期総会開催 ③ 同窓会支援：運営費補助
	7月	白衣贈呈：4年制の3年生、大学院生
	8月	① 「後援会だより」作成・大学HPへ掲載 ③ 学位記授与式：卒業記念品、生花贈呈
	10月	① 新入生用ネーム札贈呈：実習用名札 ③ 第3回役員会：上半期事業実績審議等
	11月	早期体験学習支援：交通費補助
	12月	国試対策準備支援：軽食費用補助
令和9年	1月	CBT受験支援：弁当、飲み物配布
	2月	① 白衣贈呈：6年制の4年生、実務実習用 ③ 第4回役員会：下半期事業実績審議等
	3月	① ハマヤクコンテスト：入賞賞品寄贈 ③ 卒業生支援：記念品寄贈補助、卒業アルバム作成補助、卒業パーティー補助
通年		① 新型コロナワクチン接種費用補助 ③ TOEIC受験費用補助 ⑤ 短期留学支援：保険代金補助 ⑦ 登録販売者試験受験費用補助

横浜薬科大学後援会の皆様には、日頃より学生教育への多岐にわたる御支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

本学では、人の苦しみを理解し、共感し、慈しむ気持ち、すなわち「惻隱の心」を持って社会で活躍できる医療人を育てることを理念として、教育活動を実践しております。この理念に基づき、地域における様々な活動にも協力し、社会とのつながりを通して、医療人に必要な心を育む教育を進めています。

昨年度は、静岡県薬剤師会との連携により、静岡県賀茂地域（伊豆・下田）において地域医療研修を実施いたしました。参加した学生は、病院・薬局・行政機関での実地研修を通じて、地域医療や在宅医療における薬剤師の役割を学ぶとともに、地域住民に寄り添う医療の重要性を体験しました。また、横浜市が推進する地域共生ハッカソンやヨコハマ未来創造会議にも参加し、地域住民、企業、行政、多様な専門分野を学ぶ学生と協働しながら、住民の健康増進や地域課題の解決につながる企画・提案に取り組みました。これらは、薬学で学んだ知識を地域社会で活かす力を養うとともに、様々な立場の方々との対話や協働を通して、地域に貢献できる医療人に必要な視野と実践力を身に付ける貴重な学習機会となりました。

さらに、本学では卒業研究を通じた研究活動にも力を注いでおり、学生は日本薬学会をはじめとする様々な学会で研究成果を発表し、優秀賞などを受賞しております。こうした活動を通じて、課題を発見し解決する力、論理的に考える力、成果を分かりやすく伝える力を養うとともに、科学的根拠に基づいて社会に貢献できる薬剤師・研究者の育成を進めています。

本学は、6年制3学科、4年制1学科、大学院を擁する薬学総合大学として、研究・教育体制の充実を図るとともに、アメリカ、イギリス、台湾、韓国などの大学との連携協力覚書（MOU）に基づく国際交流を推進しております。昨年度も多くの方が海外で学び、視野を広げました。このような教育環境の充実にあたり、後援会の皆様から多大なる御協力をいただいておりますことに、あらためて深く感謝申し上げます。

建学の精神である「個性の伸展による人生練磨」、すなわち、持って生まれた個性を伸ばしつつ、常に自らの人間性を高めていこうとする人材の育成という目的を達成するため、教職員が一丸となって尽力し、全ての学生が社会で活躍し、充実した人生を送ることができるよう、引き続き教育のさらなる充実に努めてまいります。

後援会の皆様におかれましては、今後とも本学の教育活動に変わらぬ御理解とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学部長 加藤 真介

学生部長の川嶋芳枝です。どうぞよろしくお願いいたします。

後援会の皆さまには、日頃より本学学生の様々な活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。後援会からのご支援のおかげで、学生たちの日々の活動がより充実したものになっております。心より感謝申し上げます。

6月7日には、多くの保護者の皆様にご参加いただき、後援会総会を開催することができました。当日はさまざまなご意見を頂戴し、今後の学生支援を考えるうえで大変貴重な機会となりました。また、本総会において篠原 康 会長が選出され、新たな体制のもとで学生へのサポート活動がスタートしております。

横浜薬科大学は2006年に開学し、その後も学科・大学院の設置を経て発展を続けてまいりました。今年度は21回目の入学生を迎え、学生たちは日々の学びに励むとともに、課外活動や行事にも積極的に取り組み、それぞれの学生生活を充実させております。

学生部では、学生一人ひとりが安心して大学生活を送れるよう、奨学金、課外活動、通学に関する支援など、学生生活全般にわたるサポートを行っております。健康面においては、看護師、臨床心理士・公認心理師の資格をもつカウンセラーが常駐し、心身の両面から支援できる体制を整えています。また、学生相談員やハラスメント相談員による相談体制も整え、学生が安心して相談できる環境づくりに努めています。

さらに、本学では指導担任制度を設けており、担任教員が学生と定期的に面談を行い、学業や生活の様子に寄り添いながら見守っています。必要に応じて保護者の皆様とも連携し、学生部とともに問題の解決に取り組んでおります。授業の出席状況や成績については、保護者の皆様にご確認いただける「アンシンサイト」をご用意しておりますので、ぜひご活用ください。不明な点がございましたら、どうぞお気軽に大学までお問い合わせください。

この春入学した新1年生には、入学後間もなく、仲間づくりを目的としたフレッシュマンセミナーを本学の軽井沢セミナーハウスにて実施いたしました。2泊3日のプログラムの中で、カーリングやさまざまな活動を通じて、先輩や同級生との交流を深めることができました。参加した学生からは「友人ができて安心した」「大学生活への不安が和らいだ」といった声も聞かれ、良いスタートのきっかけとなっています。また、4月7日には担任教員との交流会も行い、学生同士や教員とのつながりがさらに広がりました。

学生部では今後も、すべての学生が健やかに、そして自分らしく大学生活を送ることができるよう支えてまいります。時代や学生のニーズの変化に合わせながら、より良い支援のあり方を模索し続けていきたいと考えております。引き続き、保護者の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学生部長 川嶋 芳枝

教務部長の磯村茂樹です。どうぞよろしくお願いいたします。

後援会の皆様におかれましては、日頃より本学の教育にご理解、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

薬学モデル・コア・カリキュラムが改定されたことで、本学においても第3学年まで新しいカリキュラムにて講義を実施しております。この改定によって、2040年以降の社会を想定した医学・歯学・薬学において共通して求められる資質や能力を培うことが求められています。従って、基本となる概念を中心に、解決法を自ら考えられるよう、新しいカリキュラムでは、全ての講義科目において学生参加型の授業や演習を取り入れ学修成果の向上を目指しております。これに伴い、上級学年においても、演習やグループワークの該当時間を増やすなど学修成果の向上に向けて改変をしております。また、新たにAI学習支援システムを取り入れました。AIチューターが学習者の疑問・質問に最適な内容を回答し、個々の理解度に合わせて、その回答を納得いくまで深掘りすることが可能です。

次に、現在の教育状況につきましてご説明いたします。

○ 漢方薬学科、臨床薬学科、健康薬学科（6年制）

6年生は、6月1日に卒業研究発表が終了し、6月26、29日には薬学総合演習中間試験が実施されました。翌30日から、本学教員による国家試験対策の中核となる「薬学総合演習」が始まっております。本演習の振り返りとなる「理解度確認試験」や「国家試験全国統一模擬試験」を実施すると同時に、形成的評価の項目を設け研究室主任等との面談とディスカッションを通じて学修目標達成に向けて進めています。

5年生は、2月より薬局及び病院の実務実習が実施されています。また、実習以外の期間には、卒業研究を行うとともに、プレ薬学総合演習という自由科目を設定し、国家試験への向き合い方のSGDや弱点克服の演習など数多くのプログラムを行っています。

4年生は、共用試験対策として知識、技能が到達点に達するように領域ごとの薬学演習および薬剤学実習等を行います。

1から3年生は新カリキュラムに従い、基礎領域や専門領域、医療薬学領域の「概念化」に向けてそれぞれの講義内での演習や自宅学習での課題に取り組んでいます。

○ 薬科学科（4年制）

1から3年生は薬学科と同じく新カリキュラムに移行し、考える力を養う基礎教育、専門科目を学修する実践教育を実施しています。少人数での講義となりますので、きめ細やかな学生指導を心掛けています。

3、4年生は、講義と並行して2年間にわたる卒業研究を実施しています。卒業研究は問題解決能力の醸成の場であるので、指導担当教員と研究内容の一つ一つをディスカッションしながら行います。

以上のように、学士（薬学）、学士（薬科学）を志す学生さんに向けて最も効果的であると考えられる教育を提供できるよう尽力してまいります。引き続き保護者の皆さまのお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

教務部長 磯村 茂樹

厚生部長を務めております、食化学研究室の速水です。

平素は本学の教育活動に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。厚生部ではキャリアセンターの活動を中心に、学生の就職活動を全力でサポートしております。

現在の採用市場は、保護者の皆様が経験された時代とは大きく変化しています。新型コロナウイルス感染症の拡大以降、Web面接が採用の初期プロセスとして定着し、一部ではAIを用いた選考も始まっております。選考が進むにつれ、最終的には対面面接を行うのが現在の標準的な流れです。また、採用ルールの見直しにより、インターンシップ参加時の情報を採用活動に活用することが可能となりました。これにより企業の開催意欲は極めて高く、早い企業では5年生（薬科学科は3年生）の夏ごろから活発に実施されています。こうした背景から、就職活動は卒業の1年以上前からスタートするのが実質的な現状となっております。

こうした早期化する就活環境において、学生が余裕を持って準備できるよう、支援プログラムや説明会情報をメールマガジンで網羅的に発信しています。本来の目的である業界研究に加え、早期選考との境界が曖昧になるインターンシップ参加に不安を感じる学生が増えています。これに対応するため、本年度よりQRコードで簡単に行える相談予約システムを導入しました。学生は待機時間なく、柔軟にキャリアセンターへ相談できる環境を整えております。

さて、昨今の厳しい採用環境下においても、今春卒業した本学の学生は非常に健闘いたしました。6年制薬学科（15期生）および薬科学科（8期生）の就職率は共にほぼ100%を実現しております。また、大学院博士前期・後期課程および薬学科博士課程の修了生においても、希望者全員が就職を決定しております。

対面とオンラインを適宜使い分けた支援プログラムに加え、学生や企業からの声を反映し開催した「学内会社説明会」は、参加者が昨年度から大幅に増加するなど、着実な成果を上げています。これからも私たちは常に現状を分析し、支援プログラムの最適化を続けてまいります。

保護者の皆様にご覧いただけます。大学は、学生が自主的に学び、自身の人生を設計し、夢に向かって飛躍するための準備ステージです。入学当初は日々の勉学に追われ、将来のキャリアまで意識が向かないこともあるかもしれませんが、卒業まではあつという間です。

現代の就職活動は早期化・長期化の傾向にあり、学生たちは日々大きなプレッシャーと向き合っています。ぜひ保護者の皆様には、ご家庭での「一番のサポーター」として学生を見守っていただければ幸いです。

早めに就職を意識し、余裕を持ってプランを立てて着実に行動することが、就職活動の成功、ひいては学業への好影響にも繋がります。本学では学生に対し、この「計画的な就活の重要性」を繰り返し指導しております。もし就職活動の進捗について不安を感じられた際は、学生本人に対し「キャリアセンターに相談してはどうか」と背中を押していただければ、私たち教職員が責任を持ってサポートいたします。

横浜薬科大学の教職員は、学生一人ひとりが社会でやりがいを持って貢献できる人材となれるよう、勉学と就職活動の両面から全員で支援に努めて参ります。ぜひ保護者の皆様からも、学生の挑戦を温かく応援いただけますと幸いです。今後とも、温かいご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

厚生部長 速水 耕介

国家試験対策委員長挨拶

平素より、本学の教育活動に格別のご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

本年4月より国家試験対策委員長を拝命いたしました梶原康宏と申します。学生一人ひとりが薬剤師国家試験を乗り越え、それぞれの夢を実現できるよう、教員一同、学生に寄り添いながら国家試験対策に取り組んでおります。

薬剤師国家試験は、6年制薬学教育の集大成であり、薬剤師として社会へ羽ばたくための重要な関門です。現在の国家試験は、受験者全体の成績を踏まえた相対評価で実施されており、確実な合格のためには、基礎から応用まで幅広い知識を身につけるとともに、論理的思考力を養い、日々の学びを着実に積み重ねていくことが求められます。

本学では、国家試験対策を6年次だけの取り組みとは考えておりません。低学年からの日々の学修を大切に、学生一人ひとりが主体的に学ぶ力を育みながら、その歩みを継続的に支えています。

その一環として、4年次のCBT対策で培った学びを国家試験対策へとつなげるため、5年次には希望者が自由に履修できる「プレ薬学総合演習」を開講しています。本科目では、国家試験を見据えた基礎学力の定着と学習習慣の形成を目的に、早期から学びを深める機会を提供しています。とくに学力に不安を抱える学生には、自身の課題を早い段階で把握し、主体的な学習習慣を身につける機会として積極的に活用してほしいと考えています。

6年次には、「薬学総合演習」を中心に、理解度確認試験や模擬試験、ポートフォリオ面談などを通して、一人ひとりの学習状況や課題を把握し、それぞれに応じた学修支援を行っています。また、講義後の質問対応や弱点分野の補強、予備校講師による講習会など、多様な学びの機会を設けるとともに、教員が連携しながら学生が安心して学び続けられる環境づくりに努めています。さらに、学生同士が互いに学び合い、励まし合える学習環境の充実にも力を入れています。

国家試験までの道のりは決して平坦ではありません。学力だけでなく、学び続ける力や周囲の支えも大切です。学生たちはそれぞれの目標に向かって努力を重ねています。私たち教員は、その努力に寄り添い、一人ひとりの挑戦に伴走しながら、最後まで全力で支えてまいります。

保護者の皆様には、学生が安心して学修に専念できる環境づくりに日頃よりご協力いただき、深く感謝申し上げます。学生の成長を大学とご家庭がともに見守り、それぞれの立場から支え合うことが、国家試験合格への大きな力になると考えております。今後とも、学生一人ひとりの目標の実現に向け、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

国試対策委員長 梶原 康宏

大学のこの1年

浜薬祭

2025.10

第20回となる浜薬祭は、浜薬祭実行委員会を中心に開催されました。学生によるダンスやライブステージで会場が大いに盛り上がったほか、大分県自治体による果物の販売など特色ある企画も実施されました。学内・学外合わせて約35団体が出展（出店）し、1,750名を超える方々にご来場いただきました。また、開催に先立ちYCV（横浜ケーブルビジョン）で浜薬祭のPRを行うなど、地域とのつながりを感じられる催しとなりました。



白衣授与式

2026.2

実務実習に臨む5年生を対象に、白衣授与式が挙行されました。学生たちは真新しい白衣に袖を通し、薬剤師としての使命と責任、医療人として求められる倫理観や患者さんに寄り添う心を改めて認識しました。これから始まる実務実習に向けて決意を新たにするとともに、将来の薬剤師として大きく成長するための第一歩となる式典となりました。実習での多くの学びを通じた更なる飛躍を期待しています。



ハマヤクコンテスト

2026.2



開学以来、「こころの教育」の一環として実施している読書感想文コンテストです。今年度は35点の応募があり、最優秀賞1名をはじめ、優秀賞、奨励賞など計15名が受賞しました。入賞者には後援会から副賞が贈られました。受賞対象書籍は、紀伊國屋書店西武東戸塚S.C.店で2週間展示されたほか、図書館でも常設コーナーを設置し、感想文受賞作品集や学生が作成したオリジナルPOPとともに紹介されています。

学位記授与式

2026.3

令和7年度学位記授与式を挙行了しました。学部卒業生、大学院薬学研究科修了生に加え、多くの保護者の皆様にもご出席いただきました。卒業生並びに修了生の皆様、ご卒業・ご修了おめでとうございます。教職員一同、皆様がそれぞれの進路でご活躍されることを心より祈念しております。



入学式

2026.4



令和8年度入学式を挙行了しました。晴天のもと、桜咲く中、本年度の入学式もご来賓や保護者の方々にご参加いただいたの開催となりました。新入生の皆様が本学へ入学されましたことを、教職員一同心よりお祝い申し上げます。



フレッシュマンセミナー

2026.4

新入生を対象としたフレッシュマンセミナーを、軽井沢にある学園グループのセミナーハウスにおいて2泊3日の日程で実施しました。レクリエーションやグループ活動などの様々なプログラムを通じて、新入生同士はもちろん、同行した教職員や上級生との交流を深めました。大学生活の第一歩として仲間とのつながりを築き、今後の学生生活をより充実したものにするための貴重な機会となりました。最終日には多くの笑顔が見られ、実りあるセミナーとなりました。



ジャンプアッププログラム

2026.4

新入生が大学での学びの特徴を理解し、学生生活に円滑に適應できるよう、入学後約2週間にわたりジャンプアッププログラムを実施しました。講義に加え、上級生の案内による学内ツアーや、社会で活躍する卒業生との懇談会などを通じて、大学生活や将来の進路について理解を深めました。新入生同士の交流も広がり、期待と不安を共有しながら、大学生活のスタートを着実に切る様子が見られました。

